



東北大学

# 「外邦図」って何ですか？

## ～東北大学が所蔵する「外邦図」の全体像～

東北大学大学院理学研究科地学専攻環境地理学講座

(<http://www.dges.tohoku.ac.jp/gg/index-j.html>)

東北大学総合学術博物館

(<http://www.museum.tohoku.ac.jp/index.html>)

### 外邦図 (がいほうず)

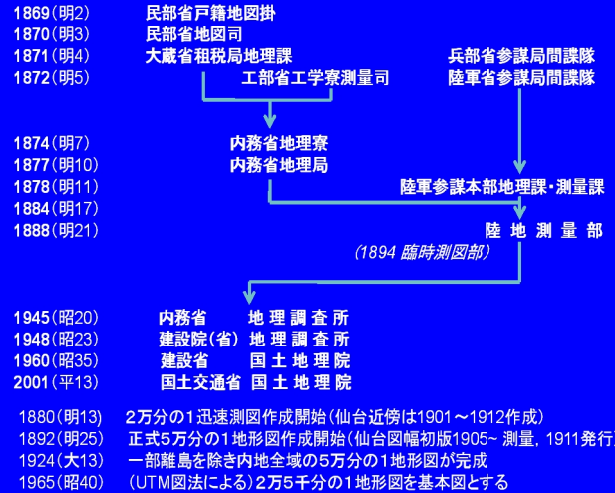
1884 (明治17) 年

「外邦図」の語は、参謀本部測量課服務規則第6条に「内国図」の対語として用いられている。

(後には、「外邦図」との対で「内邦 (地域、図)」という語も用いられるようになった。)

日清戦争開戦後の1894年12月には、外邦図作成を専門とする「臨時測図部」が編成され、翌1895年2月から行動を開始した。

### 日本における陸域の地図 (とくに一般図) を作成する公的機関



### 東北大に移された外邦図はどのように利用されたか

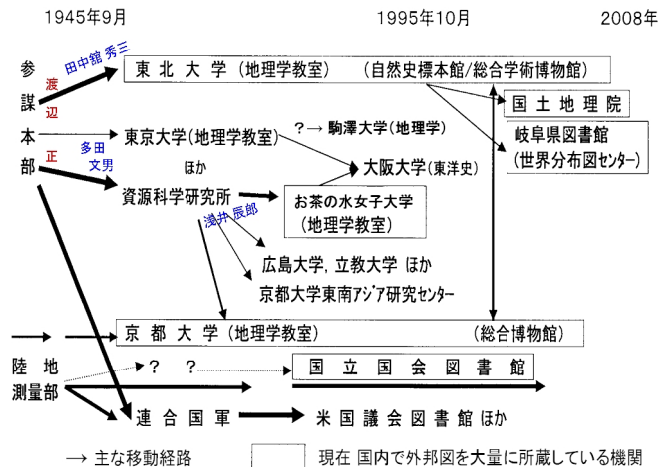
1950年代中ごろまで ほとんど未整理。公表をはばかる雰囲気も。  
1990年代初めまで ごく一部整理。断片的に地形学研究や地名検索等に利用。  
1992年1月22日 河北新報夕刊「整理進めぬ地図の山、旧陸軍作成貴重なアジアの資料」  
1992年4月 宮城県土地家屋調査士会アンバーサラー セミナーに数図幅を展示。  
1995年3月 本格的整理開始  
1995年10月 東北大学自然史標本館に収蔵。目録 ver.1 作成。学内外の研究者等に利用を認める。15図幅を展示。  
1996年1月19日 朝日新聞宮城版「軍事秘の外邦図、平和願い研究活動に利用」  
以後 国土地理院、岐阜県図書館に重複図を譲渡。京都大学と互の欠図を交換。  
1996年11月 中国の土地利用変遷調査 (地球環境研究総合研究費による研究) 等に活用。  
1996年11月 外邦図の整理・公開について報告 (雑誌「地理」41巻11号, 1996, 雑誌「季刊地理学」50巻2号, 1998など)。  
1998年11月28日 東北放送テレビ「地図を生かす: 公開された旧軍用地図を例に」(東北地区大学放送公開講座)。  
このころから インドネシアでの地形・土地利用調査に利用。  
2000年12月 外邦図をめぐる経緯について報告 (雑誌「地図情報」20巻3号)。  
2001年4月 東北大学総合学術博物館ニュースレター-3号「地図のコレクションより」。  
2002年7月 外邦図研究会発足 (代表: 小林 茂, 大阪大)。国内外での組織的研究開始。  
2002年11月 東北地理学会研究集会「外邦図の整備と関係資料の探索」。  
2003年3月 「東北大学所蔵外邦図目録」(第5版)刊行。  
2004年9月 日本地理学会シンポジウム「外邦図の基礎的研究」。  
2005年 外邦図デジタル画像 一部試験公開。経過を外邦図研究会等で報告。  
2007年2月 外邦図デジタルアーカイブweb公開開始。  
2008年5月 東北地理学会・歴史地理学会共催 公開講演会。  
2008年10月 「東北大学外邦図展」片平さくらホール

### 外邦図はどのように作られたのか？

- 日本の機関あるいはそれに準じる機関による(準)正式測量  
例: 中国の一部, 満州  
航測を併用 例: 満州の一部, ニューギニア
- 略式測量(盗測?) 例: 中国の一部
- 外国製の図の複製  
(原図が多色刷の場合, 色数を減じた多色刷で複製したものが多い)  
a 写しただけ 例: マダガスカル  
b 地名カタカナ表記 例: 仏領インドシナ  
c 凡例和訳 例: 中国の大半 (国内の図と似た図式) 蘭領 ジャワ, パリ  
d 縮尺変更 例: 英領インド・ビルマ, マレー半島  
\* それらの複合 (各種の図, 空中写真から編集) 例: 深圳渠

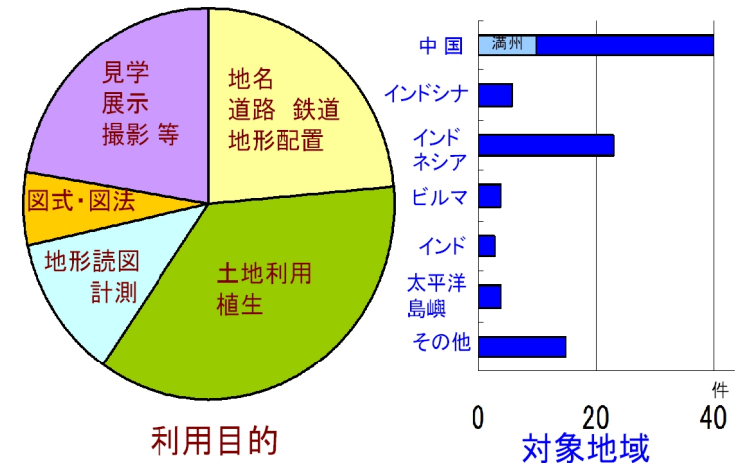
### 外邦図は敗戦後どこに移されたか

(主として外邦図研究会の調査による)



### 東北大所蔵外邦図の利用状況

(95年11月~06年5月)



東北大学が所蔵する「外邦図」は、Webサイト「外邦図デジタルアーカイブ」にて自分のパソコンから閲覧できます！！ぜひアクセスを！！

<http://dbs.library.tohoku.ac.jp/gaihozu/>

このパンフレットは、財団法人国土地理協会の助成金によって作成しています。